

祝 荒川区無形民俗文化財登録

天王祭

平成三十年

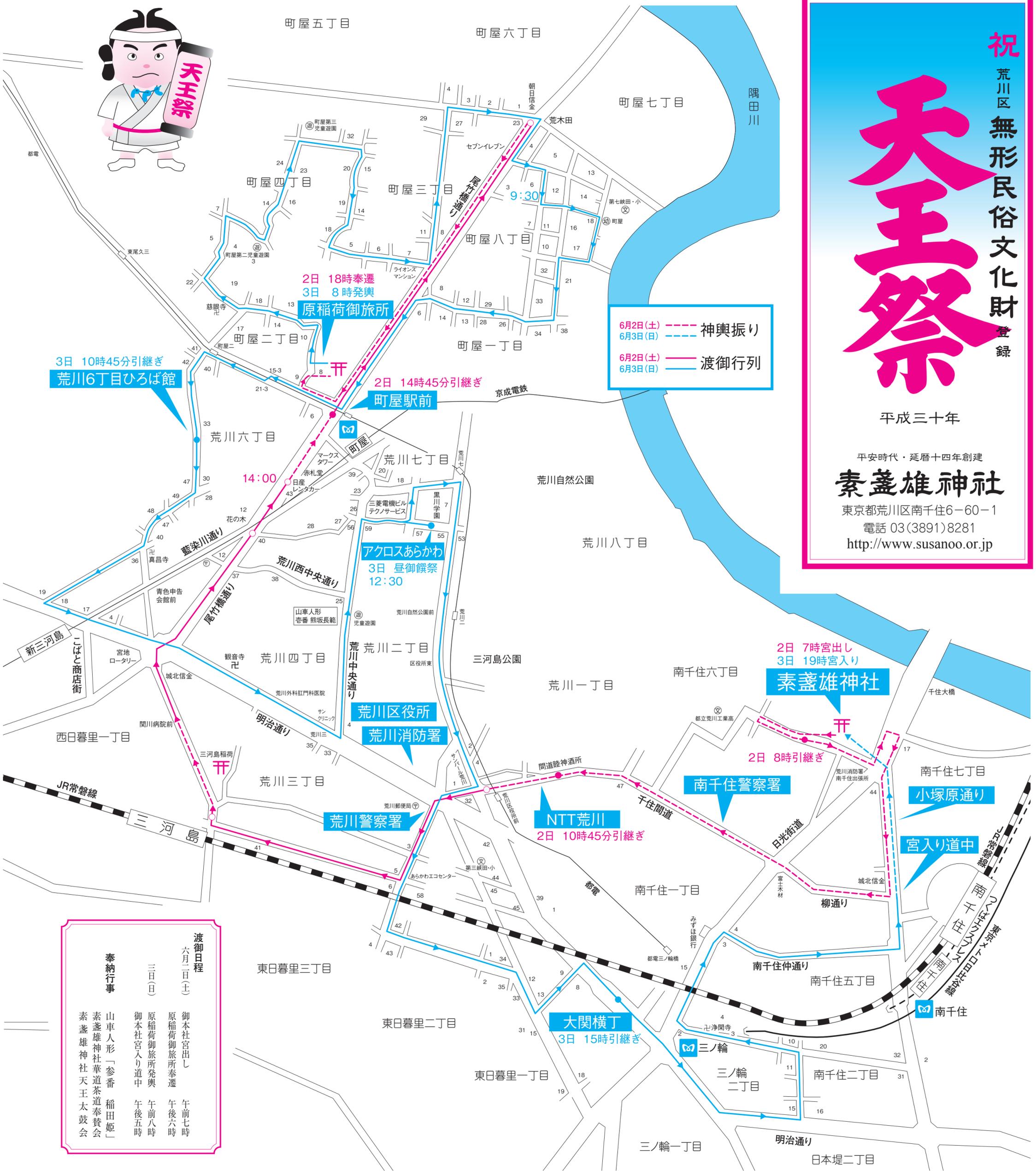
平安時代・延暦十四年創建

素盞雄神社

東京都荒川区南千住6-60-1

電話 03(3891)8281

<http://www.susanoo.or.jp>



6月2日(土) --- 神輿振り
6月3日(日) --- 神輿振り
6月2日(土) --- 渡御行列
6月3日(日) --- 渡御行列

2日 7時宮出し
3日 19時宮入り
素盞雄神社

2日 8時引継ぎ
南千住警察署

2日 10時45分引継ぎ
NTT荒川

荒川区役所
荒川消防署

荒川警察署

3日 昼御饗祭
12:30
アクロスあらかわ

2日 18時奉遷
3日 8時発輿
原稲荷御旅所

2日 14時45分引継ぎ
町屋駅前

3日 10時45分引継ぎ
荒川6丁目ひろば館

渡御日程
六月二日(土)
御本社宮出し 午前七時
原稲荷御旅所奉遷 午後六時
原稲荷御旅所発輿 午前八時
御本社宮入り道中 午後五時
三日(日)
山車人形「参番 稲田姫」
素盞雄神社華道茶道奉賛会
素盞雄神社天王太鼓会

天王祭



大祭日程

五月下旬

御旅所清祓式齋行(原稲荷)
稲田姫飾付け(神楽殿)

五月三十一日(木)

宵宮祭齋行

六月一日(金)

午前十時三十分

例大祭齋行

本社責任常任・三地区正副委員長
総代・祭禮委員・来賓招待者参列

午後六時

御本社神輿御神霊移し齋行
本社責任常任・三地区委員長
三地区猿田彦命・九番組参列

二日(土)

午前六時三十分

御本社発興祭齋行

本社責任常任・三地区正副委員長
町屋地区猿田彦命・九番組参列
氏子全町高張提灯 西島居前集合

午前七時

《町屋方宮出し》

午前八時

西島居前《南千住三之輪方引継ぎ》
小塚原通り・千住間道神輿振り

午前十時四十五分

千住間道NTT荒川前《三河島方引継ぎ》
千住間道・尾竹橋通り神輿振り

午後二時四十五分

都電町屋駅前《町屋方引継ぎ》
尾竹橋通り神輿振り

午後六時

御旅所奉遷(原稲荷)

三日(日)

午前七時三十分

御旅所発興祭齋行

本社責任・町屋地区正副委員長・総代
町屋地区猿田彦命・九番組参列
発興 町屋地区渡御

午前八時

荒川六丁目ひろば館前《三河島方引継ぎ》
三河島地区渡御

午前十時四十五分

《昼御饗祭齋行》アクロスあらかわ
本社責任・三河島地区正副委員長・総代
三河島地区猿田彦命・九番組参列
渡御供奉員昼食

午後十二時三十分

《御本社宮入り道中》
氏子全町高張提灯 小塚原通り集合
小塚原通り神輿振り・宮入り

午後三時

大関横丁《南千住三之輪方引継ぎ》
三之輪南千住地区渡御

午後五〜七時

《御本社宮入り道中》
氏子全町高張提灯 小塚原通り集合
小塚原通り神輿振り・宮入り

午後五〜七時

《御本社宮入り道中》
氏子全町高張提灯 小塚原通り集合
小塚原通り神輿振り・宮入り

還 御

本社責任常任・三地区正副委員長
総代・祭禮委員・九番組 手締め 解散

帰 納 祭

本社責任常任・三地区正副委員長参列

以上

三地区正副祭禮委員長

南千住三之輪地区

委員長
副委員長

石塚昭一 殿

三河島地区

委員長
副委員長

久米原良之 殿

町屋地区

委員長
副委員長

木内秀旺 殿

委員

齋藤文也 殿

委員

高梨彦一 殿

委員

藤原義一 殿

委員

曾根隆 殿

委員

木内秀旺 殿

委員

藤原義一 殿

委員

高梨彦一 殿

猿田彦命奉仕者

南千住三之輪地区
三河島地区
町屋地区

若林毅 殿
福田茂 殿
木内康文 殿

御神輿渡御行装

地元高張

先導(地区正副委員長)

地元高張

御社銘旗

白丁

宮迎え

御神輿

後衛神職(騎馬)

先導神職(騎馬)

鐵杖

道中祝

大旗

御神輿

御神輿

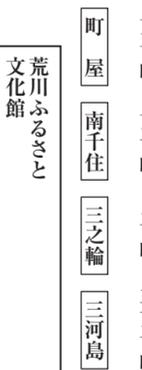
御神輿

御神輿

御神輿

御神輿

御神輿



当社は、徳川家康が江戸に入り初めて架けた橋である千住大橋にほど近く、松尾芭蕉「奥の細道」旅立ちの地日光道中初宿の千住に鎮座します。
天王祭は、この往來の盛んな街道の夏に流行する疫病を、激しい神輿振りにより、御祭神の神威をより一層振り起こして祓う悪疫退散・除災招福・郷土繁栄を願う祭禮です。
厳肅な諸祭儀を経て、氏子六十一ヶ町は《祭》一色となります。三年に一度の御神幸祭では、宮神輿《大・中・小》三基そろった二天の神輿振りから、家族・仲間・郷土の地域共同体意識の構築を目指します。

《御本社大神輿》

明治 十年 行徳十三代浅子周慶 調製
昭和六十二年 行徳十五代浅子周慶 修繕

荒々しい神輿振りにより損傷激しく、大修繕を行う。昭和天皇米寿の佳き歳の五月八日、故事に倣い千葉県行徳より十数艘の船団を率いて三十数キロにわたる船渡御を古式ゆかしく齋行。

《鳳車》

大正十四年 君津諸宮製作所 調製
平成二年 日光社寺文化財保存会 修繕

先の大戦により激しい損傷を受け、今上陛下御即位大典を奉祝し、日光東照宮等を手掛ける名匠名工へ修繕を依頼。修繕完成を祝し、日光東照宮御神前において御禮の神輿振りを奉納。

《御本社中神輿》

平成七年 行徳十六代浅子周慶 調製

大神輿は、氏子域の若陸選抜によってのみ担がれる。伝統を護り次代に引き継ぐことを祈念し、女性や年少の者も担ぐことができるよう、皇太子殿下御成婚を奉祝し調製。

《御本社子供神輿》

平成二十年 栃木小川政次 調製

幼少時からの体験を通じた伝統の継承・後継の育成を旨とし、秋篠宮悠仁親王殿下御誕生を奉祝し調製。

◆◆◆氏子みんながタイトルホルダー◆◆◆

御本社大神輿の勇壮な神輿振りを支える四間半(8.1m)の担ぎ棒が修繕を終え、御神幸祭を迎えます。

当社は、先の大戦空襲により御本殿・神輿庫を除く諸建造物が灰燼に帰し、担ぎ棒も焼失しました。

戦後第一回の天王祭御神幸祭。未だ連合国軍占領下である昭和二十六年の齋行に際し、現在の担ぎ棒が篤志の宮元有志により御奉納されました。この度の修繕を担当した神輿店からは、「現在、同等材での製作は困難」なほど優等の国産ヒノキ材が用いられ、郡内でもこれほど良材の担ぎ棒は残っており、後世に自慢できる財産」と高い評価を受けました。

戦後間もないときに、斯様にも優れた材を求め、地域伝統文化の復興継承に御尽力された先人たち。それを見て受け継ぎ語り継ぎ、それぞれの代において前記の大・中・小宮神輿の調製修繕と、今般の「もみ綱」新調。《受から授・私から公》へと成長変化し、無数の「過去の今」の蓄積が【現在の今】となり、本年一月に荒川区無形民俗文化財登録となりました。

千貫神輿・神輿振り。威勢のいい若者だけが対象ではありません。掛け声・手拍子のお爺さんお婆さん、山車を曳くお子さんたち、割烹着姿の婦人部や交通整理に徹してくださいの方々……。老若男女の区別なく、先人たちと共に、氏子みんながタイトルホルダー！